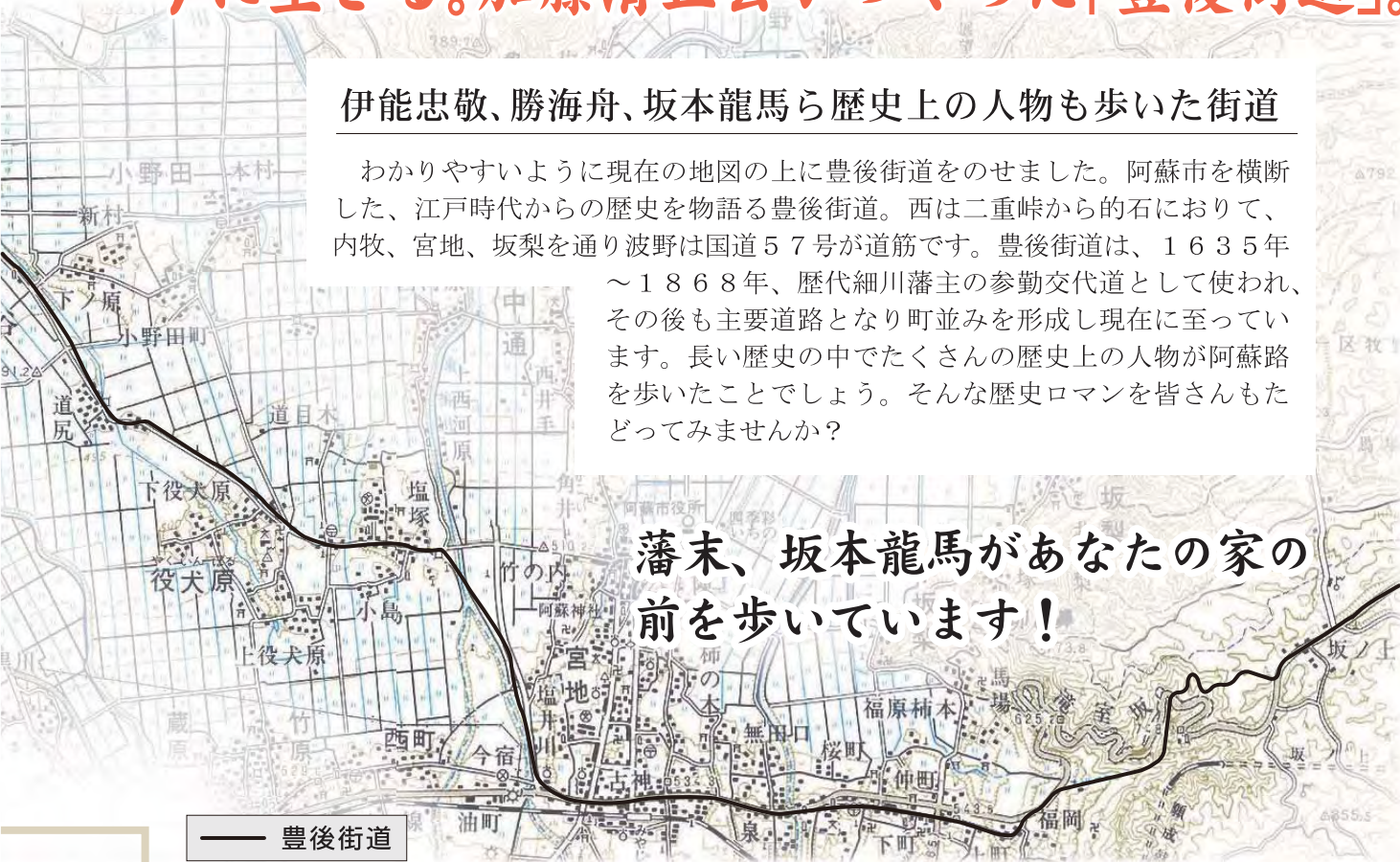


今に生きる。加藤清正公がつくった「豊後街道」。

伊能忠敬、勝海舟、坂本龍馬ら歴史上の人物も歩いた街道

わかりやすいように現在の地図の上に豊後街道をのせました。阿蘇市を横断した、江戸時代からの歴史を物語る豊後街道。西は二重峠からの石において、内牧、宮地、坂梨を通り波野は国道57号が道筋です。豊後街道は、1635年～1868年、歴代細川藩主の参勤交代道として使われ、その後も主要道路となり町並みを形成し現在に至っています。長い歴史の中でたくさんの歴史上の人物が阿蘇路を歩いたことでしょう。そんな歴史ロマンを皆さんもたどってみませんか？



藩末、坂本龍馬があなたの家の前を歩いています！

大凧あがった！



役犬原中央公民館活動（園田晴夫館長）として「第2回子ども会凧づくり」が、3月20日、旧役犬原小学校で行われ47人が参加しました。

渡辺照義さんの指導で、大凧を作った子どもたちは、最後に凧に好きな絵や文字を入れ、凧あげに挑戦。この日は強風が吹き、これに負けずと皆で紐を引き、見事、約3mもの大凧あげに成功しました。元気に遊んだ後は、地域ボランティアの山部アイ子さん、工藤吹さん、工藤フヂエさん、渡辺スイ子さん、中村クニ子さんが朝から準備してくれた「ぜんざい」に舌鼓を打ち、世代間交流も楽しく行われました。

日本の文化「茶道」を学びました！



阿蘇市茶道こども教室実行委員会（小代もと子代表）主催の小学生による修了お茶会が2月27日、一の宮子育て支援センターで行われました。参加したのは、この教室で稽古（月2回）を始めて2年～4年になる37人の児童で、この日は家族を前に練習の成果を披露するとあって、みんな一生懸命取り組みました。

礼儀と清心の日本文化は残したいもの。茶道こども教室は文化庁の委託を受け長年伝承活動に協力されています。



▶ 通りに設置された2つの案内板



坂本龍馬が宿泊したことを記した案内板を設置

勝海舟と坂本龍馬が、重要な役目を果たすため向った長崎への往復に、内牧に宿泊した(1864年)ことを、市民やまちを訪れた人たちに知ってもらおうと、阿蘇市観光協会(小笠原徹朗会長)が案内板を設置しました。案内板には、内牧に宿泊したことなど阿蘇道中について、「勝海舟日記」が記されています。場所は阿蘇体育館そばのバイパス沿い、内牧御茶屋跡に立てられました。小笠原会長は「ここを通る人に、維新に向けた力強い二人の息吹と、内牧の歴史を感じてもらいたい」と話されました。同じく市の文化財説明板等取替事業により、同所に、内牧御茶屋の説明板を設置しました。御茶屋とは、参勤交代の折、大名たちが宿泊や休憩をした場所で、内牧御茶屋は宿泊所として利用されていました。当時の絵図も記してありますので、ぜひ、ご覧ください。



たかな祭盛況！多くの人で賑わう



阿蘇たかな祭が今年も3月28日、小里地区の畑で催され、県内外から300人が訪れ、たかな折りと漬け込みを楽しみました。この催しは、18年前阿蘇の特産でまちおこしをしようとする有志が立ち上げたのが始まりで、「阿蘇たかなの美味しさを知ったら毎年来るしかありません！」というファンが大変多く、今なお4Hクラブなどが取り組み祭りが継続されています。この日、来場者は、花原川沿いの桜と湯浦一帯の田園風景に心癒されながら、昼食に阿蘇名物のだご汁やたかなの白あえを堪能し春の阿蘇を満喫しました。

住みよいまちについて意見交換



阿蘇市公民館内牧分館(高宮晴夫館長)主催、第1回内牧校区地域活性と住みよい暮らしづくりについての意見交換会が、3月4日、農村環境改善センターで開かれ、区長はじめ多くの方が参加されました。阿蘇ホテルの会会長の湯浅陸雄氏による「北外輪山麓・里山の現状と保全」と題した講話の後、内牧校区市議会議員を迎えた意見交換会があり、各区から様々な意見が述べられました。多かった意見が高齢化の問題で、「区役など若者がおらず困難、どうにか雇用や住宅環境をよくし、若者が活気付くまちへ」他、「農業と観光のまちとして輝きを取り戻す工夫を」「各区を細かい所から見直し住みよいまちへ」などたくさんの提案があげられました。